

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3291800013		
法人名	株式会社 海愛		
事業所名	グループホーム ふくろうの森 1Fひだまりユニット		
所在地	島根県邑智郡川本町川下1319番地15		
自己評価作成日	平成25年10月20日	評価結果市町村受理日	平成26年2月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 x.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=329

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成25年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かで穏やかな環境で、利用者と職員が仲良く家庭的で温かな雰囲気の中で、喜びにあふれた生活が出来るよう頑張っています。地域の一員として安心して暮らしていけるよう地域とのつながりや関わりを大切にしています。
利用者だけでなく職員も楽しんで過ごせるように声を掛け合いながらサービスの提供に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設来10年を迎え、利用者の状況にも変化が見られるようになってきた。運営推進会議で行政や地域の人達から地域資源の情報を聞き、事業所が求めていることを伝えながら、さらにボランティアなどとの関わりを拡げ利用者の生活を支えたいと考えている。職員同士で支援技術の力量向上を目指し勉強会を随時開き、学び合い確認しながら支援に繋げる工夫をしている。急な外出希望にもこれまで以上に柔軟に対応して外出の機会を増やし、利用者の笑顔が多くなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内のいろいろなところに貼り、いつでも確認し意識付け出来るようにしている。又、ケアの実施についても理念をもとに話し合いながら行っている。	理念を忘れないよう、いつも目にする場所に貼ったり職員間で声をかけ合い意識づけの工夫をしている。ケアに繋がっているかをユニット会議で振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	火災訓練で地域の方の協力を得たり、地域の一員として草刈り、盆踊り、運動会など参加し交流を行っている。	地域の行事への参加や、ボランティアの来訪、中学生の体験学習の受け入れなど行き交流している。日常的に散歩の時に挨拶を交わしたり触れ合う機会がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生、高校生の職場体験や学習の場、研修を受け入れ、認知症ケアについて伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議では、現状報告や状況を見ていただき、意見や提案をもとに、反省、見直すことでよりよいケアの向上につなげている。	避難訓練について、手すりの追加設置やより明るい照明にするなどの提案を受け改善に繋げている。会議内容は家族に送付したり玄関に置き伝えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	些細なことでも相談することで、日頃より連絡を取り、関係作りに努めている。	わからないことは何でも聞き相談をしている。利用者の状況を伝え助言をもらったり、町内の高齢者の現況を話し合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行い理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 玄関の出入りは自由に出来るが、夜間は防犯のため施錠している。	勉強会で身体拘束の理解を深め、言葉使いや行動で気になることは話し合い、気づきを支援に活かしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、虐待についての理解を深め、小さな気づきも報告し話し合う機会を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護職員に必要な知識として、資料をもとに学習の機会を持っている。(成年後見制度を利用している方もおられる)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時には十分な時間をとり、利用者、家族に説明を行い理解、納得をえられるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気軽に話せる関係作りを心がけ、面会に来られた家族様から頂いた意見はケアに活かすようにしている。	面会時、家族会、「何でもノート」等で家族から意見を聞く機会を作っている。家族からの意見や情報は共有し、ケアに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員間のコミュニケーションを活発化するように心がけ、意見や提案をしやすい環境作りに努めている。	管理者は日常的に職員から意見を聞くことに努め、勤務開始時間の変更など改善に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々への声かけやねぎらいの言葉かけをし、職場環境の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修でケアの向上を図り、以前に比べると外部研修を受ける機会は減っているが、各自の力量に合わせたトレーニングしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の交流、相互訪問など思いはあるが、今年度はあまり実施できていない。研修の場を提供することで交流が持てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人に不安や困っている事を直接聞き、利用者の思いに沿えるよう関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や心配事、要望に耳を傾け、安心につながる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に情報を聞き、まず何のサービスが適切なのか必要なのかを見極め、サービス提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と一緒に過ごすなかで要望や困っている事などを聞いたり、生活の知恵、経験を聞かせてもらったりして、良い関係を築いていけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来所時は、利用者様の様子を知らせたり、家族と話し合える場を持つ事に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行き慣れた店に買い物へ行ったり、なじみの美容院に行ったりしている。	生まれた場所や墓参りに出かけたり、2Fユニットでは以前から通っていた教会に家族や知人の協力を得て通うなど、関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの状態を理解し他の利用者とは、楽しく過ごせるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡や問い合わせ、相談できる関係が保てるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で一人ひとりの思いや希望を聞き、できる限り本人本位の暮らしが送られるよう検討している。	テレビを見ている時「おいしそう」の一言を聞き漏らさず献立に取り入れたり、利用者の歌っているのが詩吟だと気づき話題にし笑顔を引き出すなど、日々思いを聞きとり支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの暮らし方や情報を聞きながら洗濯干し、たたみ、食器洗い、拭きなど情報を聞きながら入所前と変わらない生活ができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや記録で一日の様子や現状を分かるようにし、一人ひとりの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングで利用者の課題等を話し合い、それぞれの意見からニーズに即した介護計画になるように努めている。	担当者を中心に利用者や家族の希望や職員間で情報を共有しプランを作成している。ケアの内容をマーカーでわかりやすくした「気づきのページ」を利用し、変化を次の計画に活かす工夫をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりの一日の様子を分かりやすいように記録し、情報共有に努め介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の意向に配慮しながら、各種イベントや外出、病院受診への付き添いなど、必要な支援を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生け花教室、訪問散髪、ボランティアなど地域の方々の協力を得て、安全で豊かな暮らしが出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とはいつも相談できるよう連携が出来ており、利用者、家族の意向を聞き納得の得られる医療を受けられるようにしている。	協力医の週一回の訪問診察があり、夜間も相談できる関係が築かれている。2Fユニットでかかりつけ医に受診する人は、家族に「受診時連絡表」を持参してもらい情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一週間に一回訪問看護により看護師に様子を伝え、相談したり適切な指示を受けている。又、日頃より相談出来る体制にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の経過は担当医、家族と情報交換をしたり話し合いを持ち、早期退院へと支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	適切な時期に家族、かかりつけ医、事業所で話し合いをしながら終末に向けての方針を決めている。最期までその人らしく温もりの中で過ごせるように支援している。	家族から最期までここでとの希望がある。利用者の状況に合わせ、医師や家族、職員と話し合いをしながら対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、定期的に訓練を行い実践力を身に付けるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や地域の方の協力を得て訓練も実施し、安全に避難出来るよう確認し身につけるようにしている。	夜間想定や日中の訓練を行い避難場所への移動訓練を行った。夜間想定の際には自治会長をはじめ地域の人達に参加してもらい、地域との協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	学習する機会を持ち、プライバシーに関する理解に努め、日常の会話や声かけなどにも気をつけて対応している。	人生の先輩として言葉使いに気をつけている。トイレに座った時の羞恥心に配慮したり、入浴介助はさりげない対応をするよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者と過ごす時間を通し、利用者への思いを表情、しぐさ、身体の動きや発せられた単語などからもサインを受け止めて、働きかけるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの状態や思い、ペースに合わせてながら買い物やドライブに行き、楽しい生活になるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りや髪をといたり、お化粧をしたり、一人ひとりにあった身だしなみやおしゃれの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう話したり、出来る方には職員と一緒に皮むきや食器拭きをしている。	おやつ作りや、月に一回、利用者と職員と一緒に食べる機会を作っている。利用者の状況に合わせて食器を工夫したり、1Fユニットでは自分の好きな場所で食事をする人もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量や水分量を記録し、水分の入りにくい方には工夫をしながら摂取できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりに合った口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに合ったトイレの声かけ、誘導をし、排泄の記録を行い、トイレでの排泄やおむつの使用を減らせるように努めている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間を見ながら利用者に失礼のない声かけをしてトイレで排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の内容、水分摂取の工夫、運動、腹部マッサージなどを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	介助の状態により、曜日を決め入浴している。大きな風呂に入り、温泉気分を味わっていただいたり、利用者の希望に応じられるように努めている。	入浴剤を使ったり声かけを工夫して支援し、利用者の笑顔を引き出している。隣の事業所の大きな風呂を利用して利用者同士で楽しめる工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調の悪い時や身体的状態により、昼間でも休息をとれるようにしている。ホールにも横になれるスペースを用意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を確認しやすいように一覧表を作り、薬の変更があった時は状態観察を申し合わせている。副作用等の内容はいつでも確認できるようにファイルに綴じてある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	会話や関わりの中で、楽しみや好みを感じとり、笑顔が見られるように職員と一緒に楽しみごとや気分転換できるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に施設周辺の外気浴は行っている。又、町内、郡内のドライブ、遠出して海を見に行ったりしている。車椅子の方も天気の良い日には、外気浴をしている。	希望を聞いて散歩やドライブに出かけている。車イスの利用者も畑仕事をできるように工夫したり、他の利用者のいも掘りを見ながら外気浴を楽しむ時もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所管理で個別に所持している方はおられない。 必要に応じてお金を使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいという思いを大切にしている。 贈り物など届いたときは一緒に電話している。 年賀状を書いたり、家族へ手紙を書いたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気や季節感を取り入れ、利用者一人ひとりが安全に過ごせるよう椅子や場所などにも配慮している。	テーブルやソファで自由に過ごせ落ち着けるよう工夫している。廊下には利用者の写真や家族の手づくりの作品が飾ってある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係や、身体状態を見ながら適した環境になるようにしている。 共有空間でも独りになれる空間もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具や装飾品などがある部屋作りをしている。 利用者様が居心地よく安心して過ごしていただけるよう努めている。	馴染みの家具やテレビ、家族の写真、利用者の作品が飾られている。希望でこたつを用意したり、室温の調節は利用者に合わせて行い、居心地がいいように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できるだけ自立した生活が安全に送られるように利用者の活動の様子をみながら配慮している。		